



百万石蝶談会

No. 119 April 1996

チャバネセセリとミヤマチャバネセセリの下顎長の比較

松井 正 人

ミヤマチャバネセセリの下顎はチャバネセセリ属でもっとも長く、ほぼ尾端に達するとされている(福田晴夫・他、1984)。しかし、金沢の海岸部に生息するミヤマチャバネセセリの下顎長を調べたところ、下顎が尾端に達している個体は無く、先端部は第4腹節から第9腹節にあり、第7腹節にあるものが最も多かった(松井正人、1995)。

そこで今回は、近縁のチャバネセセリの下顎長を調べ、先のミヤマチャバネセセリの下顎長と比較した。

《材 料》

金沢市に隣接する内灘町の内灘霊園で採集したチャバネセセリ2♀から採卵し、1995年10月9日と10日の両日に46卵を得、チガヤを用いて暖房した室内で飼育した。11月27日から蛹化が始まり、翌年の1月30日に最後の1頭が蛹化し、32蛹を得た。

《結 果》

チャバネセセリ32蛹の下顎先端は、第4腹節から第7腹節にあり、第5腹節と第6腹節に90%以上が見られ、第6腹節には81%が集中した(表-2)。

《ミヤマチャバネセセリとの比較》

松井(1995)によると、ミヤマチャバネセセリの下顎先端は、第6腹節から第9腹節に90%以上が見られ、第7腹節が47%と最も多かった(表-2)。このことから、金沢の海岸部に生息するミヤマチャバネセセリの下顎はチャバネセセリより長い傾向にあることがわかった。

しかし、年間通して多数♀から材料を得たミヤマチャバネセセリに対し、チャバネセセリは2♀からしか材料を得ていないので、チャバネセセリは種の姿を正確に表現しているとは言えず、今後はチャバネセセリの多数♀から得た材料を使って確か

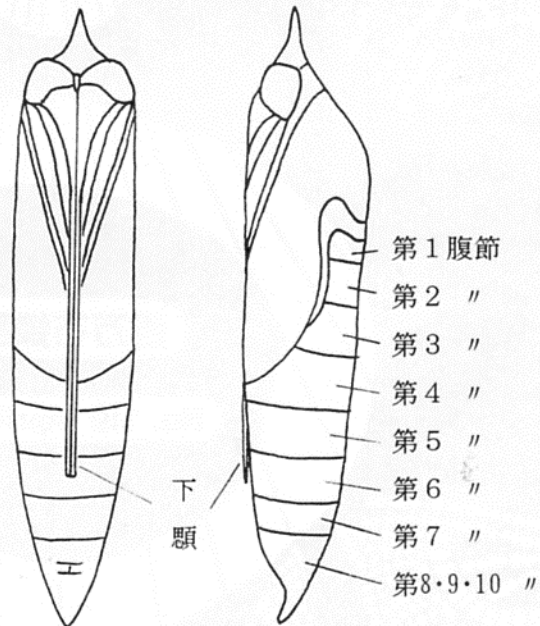


図-1. チャバネセセリの蛹

める必要がある。また、腹節をスケールとして下顎長を調べたが、これでは目盛が粗く目盛幅も一定していないので、今後は実測した蛹長と下顎長を使って比較すべきだと思われる。

腹 節	4	5	6	7	8	9	10	計
チャバネセセリ	1	4	26	1	0	0	0	32
ミヤマチャバネセセリ	3	2	8	33	17	7	0	70

表-1. チャバネセセリとミヤマチャバネセセリの下顎先端位置 (頭数)

腹 節	4	5	6	7	8	9	10	計
チャバネセセリ	3	13	81	3	0	0	0	100
ミヤマチャバネセセリ	4	3	12	47	24	10	0	100

表-2. チャバネセセリとミヤマチャバネセセリの下顎先端位置 (構成比%)

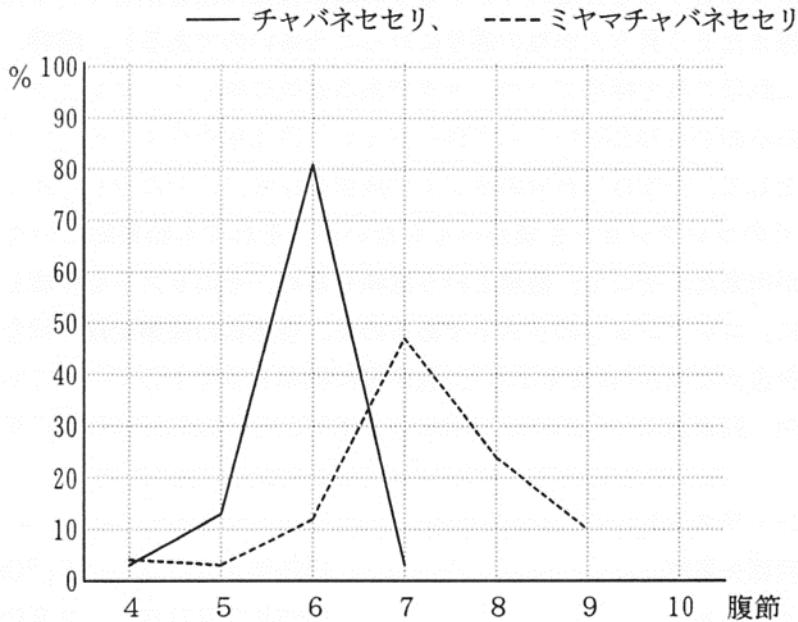


図-2. チャバネセセリとミヤマチャバネセセリの下顎先端位置

《参考文献》

福田晴夫・他, 1984. 原色日本蝶類生態図鑑(IV). pp373. 保育社

松井正人, 1995. 海岸地域に分布するミヤマチャバネセセリの下顎長. 翔, (114): 7-8.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東 8 7 1-15》

これがぼくの「ギフチョウ・コレクション」

指 田 春 喜

私が蝶類の採集をしはじめた1960年以降、我が国の蝶界にも色々なブームが起こった。日本産の蝶類については、その大方の標本が手に入ってしまうと生活史解明の時代に突入した。良き指導者にも恵まれ、それにより今はその立場にある当時の若かりし頃のアマチュアの青年達が効率的に機能し、ある意味での黄金期であった。それもヒサマツミドリシジミをもって一応すべての決着が着き、その後沖縄県の返還と共に1970年代は多くの虫屋が沖縄・八重山に渡った。そして、沖縄ブームにわずかに遅れ、台湾・東南アジアをはじめとする海外に進出する虫屋が激増し、その間にも北海道や各地の離島の人気も仲々のものがあつた。しかしながら、多くの人は国内外を問わず本州から海を越える遠隔地に、しかも虫に時期を合わせて、そうたびたび遠征はできない。

これに対して、例の蝶研出版の『ギフチョウ88か所めぐり』が火付け役となった各産地の“ギフチョウ集め”はこれまでのものとはちょっと趣を異にしたものである。最初の頃はあまりのバカバカしさに冷やかに傍観していた小生（そう言う人も少なくなかったようだ）も1990年より、またポツポツとギフを採集するようになり、この4～5年は3月末から6月に入るまではせつせと各地のギフチョウの成虫採集に精を出している始末である（そして、実際またそう言う人が私の周りにけっこう多いのである）。嗚呼、何たるミーハー！でも、これはこれで極めてマニアックであるが故に楽しく、コレクターの本来の姿のある一面であるのかも知れない。いずれにしても、蝶採集の哲学（そんな大げさなものでもないが）として、小生は「自分のネットで成虫を採る」ことに少しばかりこだわっているので、多くのコレクションを望むべくもないが、それでも結果的にいくらかのギフチョウの標本が出来た。そこで、整理という意味も含め、そのリストを作成してみた次第である。因みに、コレクションのリストであるので、当然私の採集記録ではなく、私以外の人の採集品を含めた現在(1996年1月)、我が家に現存する標本のデータであるのは言うまでもない。尚、飼育品については (bred) と表示し、それ以外は野外の採集品である。

《コレクション・リスト》

1. 秋田県由利郡矢島町	1995年3月22日	1♂(bred)
" " "	1995年3月31日	2♀(bred)
" " "	1995年4月10日	1♂(bred)
2. 山形県東田川郡立川町狩川	1992年4月24日	2♂1♀
3. " 西置賜郡小国町朴の木峠(alt.300m)	1994年5月3日	18♂3♀
4. " 西田川郡温海町関川峠(alt.350m)	1995年5月4日	10♂1♀
5. " 最上郡戸沢村三ツ沢林道(alt.350m)	1995年5月6日	6♂1♀

6.	新潟県上越市南葉高原キャンプ場(alt.450m)	1992年5月3日	7♂7♀
7.	糸魚川市小滝西山(alt.450m)	1993年5月4日	4♂2♀
8.	西蒲原郡弥彦村御殿山(alt.116m)	1994年4月17日	4♀
9.	岩船郡山北町雷(いかづち)峠(alt.350m)	1995年5月3日	4♂
10.	福島県摩耶郡西会津町徳沢(alt.350m)	1995年5月7日	2♂1♀
11.	長野県飯山市関田峠(alt.1100m)	1994年5月22日	1♂
12.	北安曇郡白馬村細野	1972年5月7日	9♂3♀
13.	神城	1972年5月7日	2♂2♀
14.	富山県西礪波郡福光町三軒茶屋	1991年4月15日	1♂1♀
	” ” ” ”	1991年4月16日	1♂
15.	東礪波郡利賀村水無湿原(alt.1450m)	1994年6月5日	3♀
16.	婦負郡八尾町檜尾	1991年4月21日	2♂8♀
17.	上新川郡大山町大多和峠(alt.1100m)	1991年6月9日	11♂3♀
18.	中新川郡立山町美女平(alt.1000m)	1991年5月20日	1♂1♀
	” ” ” ”	1993年6月1日	9♂1♀
	” ” ” ”	1994年6月1日	8♂4♀
	” ” ” ”	1994年4月	7♂7♀ (bred)
19.	下新川郡宇奈月町浦山	1993年5月1日	2♀
	” ” ” ”	1994年4月	5♂3♀ (bred)
20.	岐阜県岐阜市雑倉	1992年3月31日	5♂
	” ” ”	1992年4月2日	1♂1♀
21.	高鷲村蛭ヶ野高原	1983年5月22日	9♂3♀
22.	恵那郡蛭川村宮ノ前	1989年4月5日	1♂
23.	大野郡白川村芦倉	1991年4月23日	7♂1♀
24.	平瀬	1992年4月26日	2♀
	” ” ” ”	1994年4月	11♂7♀ (bred)
25.	馬狩(alt.650m)	1992年4月26日	7♂4♀
26.	山県郡伊自良村大門	1992年3月31日	3♂
	” ” ” ”	1992年4月2日	1♂
27.	岐阜国際カントリークラブ	1992年4月2日	1♂
28.	石川県金沢市荒山(医王山北麓)	1992年4月17日	1♂
	” ” ”	1994年4月15日	4♂5♀
	” ” ”	1995年4月15日	4♂
29.	医王山(alt.600m)	1992年4月	1♂ (bred)
30.	東原	1982年4月1日	1♂ (bred)

31.	石川県金沢市窪～山科	1978年4月16日	13♂1♀
	" " "	1978年4月23日	35♂7♀
	" " "	1982年4月18日	7♂7♀
	" " "	1983年4月24日	2♀
	" " "	1985年4月21日	22♂19♀
	" " "	1995年4月16日	2♂4♀
32.	" " 湯涌(湯涌温泉)	1992年4月18日	5♂1♀
	" " "	1994年4月16日	9♂1♀
	" " "	1995年4月21日	10♂
33.	" " 天池(金沢工業大学自然苑)	1995年4月8日	28♂
34.	" 能美郡辰口町館	1990年3月21日	10♂
35.	" 石川郡白峰村小赤谷(alt.700m)	1992年4月29日	1♂
36.	" " " 白峰(alt.650m)	1995年4月29日	1♂
37.	" " " 河内村上福岡(alt.300m)	1993年4月18日	12♂1♀
38.	福井県勝山市横倉(alt.400m)	1992年4月19日	3♂2♀
39.	" 南条郡南条町そま山	1990年4月2日	11♂1♀
40.	" " " 奥ノ院付近	1990年4月2日	4♂2♀
41.	" 丹生郡清水町上天下	1991年4月7日	7♂
42.	" 大野郡和泉村俵谷(alt.830m)	1994年5月8日	6♂2♀
43.	東京都八王子市高尾(高尾山)	1965年5月2日	1♀
44.	" " 片倉御殿峠	1970年4月13日	1♂
45.	神奈川県津久井郡津久井町鳥屋	1992年3月28日	1♀ (bred)
46.	" " " 宮ヶ瀬	1992年4月3日	1♂
	" " " "	1992年4月9日	1♂
47.	静岡県庵原郡富士川町野田山	1972年4月17日	7♂
	" " " "	1973年5月8日	8♂1♀
	" " " "	1975年3月23日	2♂ (bred)
48.	愛知県小牧市野口	1992年4月2日	2♂
49.	" " 石金	1991年4月12日	1♂
	" " "	1993年4月3日	1♂
50.	" 犬山市尾張富士	1992年4月7日	2♂
51.	奈良県吉野郡川上村	1991年4月4日	1♂ (bred)
52.	和歌山県那賀郡粉河町龍門山	1978年4月11日	1♂
53.	大阪府南河内郡千早赤阪村金剛山	1978年4月12日	1♂
54.	京都府舞鶴市四面山	1979年4月15日	1♂

55. 京都府京都市左京区岩倉	1964年4月5日	1♂
" " " "	1984年3月26日	1♂ (bred)
56. 兵庫県西脇市	1983年4月	1♂
" "	1985年4月11日	1♂
57. 山口県岩国市小瀬柏山	1992年4月2日	2♂
58. " 光市小周防	1992年4月3日	4♂

以上19都府県、ミクロ的に言えば、58ヶ所の産地、500頭のギフチョウのコレクションということであった。既に絶滅してしまい、新たに標本の入手が不可能となっている東京の2産地（高尾山、御殿峠）と和歌山県（龍門山）のものがあるので、当然パーフェクト23都府県の収集を目指しますよ。もちろん、「自分のネットで成虫を採集して」なんてことは建前でありまして、広く会員諸氏のご協力をお願いする次第であります。どうか小生の未収集産地のギフチョウの余品をお持ちの方は是非お譲り下さい。たのんまっ！

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町15-68》

小松市立博物館所蔵の昆虫標本

松井正人・富沢 章

このたび小松市立博物館の御好意により、同博物館の所蔵品を見る機会を得、同博物館の所蔵品目録には記載されていない標本を見出したので報告する。報告にあたり、小松市立博物館の皆様にお礼申し上げます。

タガメ	1951年7月28日	小松市丸の内	1頭	浜坂彰則
シマゲンゴロウ	1951年6月18日	小松市芦城公園	1頭	浜坂彰則
アオマダラタマムシ	1993年7月20日	小松市中海	1頭	坪内大介
アオマダラタマムシ	1994年8月12日	小松市中海	1頭	高田康平
ヒラタクワガタ	1985年8月9日	小松市古府	1♂	清水秀忠
ヒラタクワガタ	1985年8月17日	小松市古府	1♂	清水秀忠
ヒラタクワガタ	1985年8月18日	小松市古府	3♂	清水秀忠

アオマダラタマムシの記録、採集データを共なつたタガメ、シマゲンゴロウの記録は、石川県内に於いては今のところ唯一のものと思われる。

《ま つ い ま さ と 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

《と み さ わ あ き ら 〒923 小松市大川町3-71》

小松市でクロカタビロオサムシを採集

富沢 章・富沢直浩

クロカタビロオサムシ (*Calosoma maximowiczii* Morawitz) は日本全土に分布するが県内における採集例は少ないようである。筆者らは本種を下記のとおり小松市で採集しているので報告する。

1995年7月13日	小松市加賀八幡	1♂1♀	矢田新平	採集
1995年7月18日	小松市加賀八幡	1♂	富沢直浩	採集

採集地は加賀八幡温泉のあるところで、周囲はアカマツ、コナラを主体とした典型的な里山の二次林が残されている。採集したのは夜9時頃で水銀灯の照明に照らされた駐車場のコンクリート上である。これらの個体は灯火に誘引されたものと思われる。

最後に本種の採集記録の発表を許された矢田新平氏、県内の採集例について教えていただいた井村正行氏にお礼申し上げる。

《とみさわ あきら 〒923 小松市大川町3-71》

《とみさわ なおひろ 〒923 小松市大川町3-71》

クロカタビロオサムシの追加記録

井村正行

県内におけるクロカタビロオサムシ (*Calosoma maximowiczii* Morawitz) の採集例は、数例しかなく、近年では野中(1991)に報告されて以来と思われる。

1995年7月30日	鶴来町白山	1♀	井村正行	採集
------------	-------	----	------	----

建築工事現場の灯火に飛来したと思われる個体で、採集時にはすでに死んでいたが完全品だった。採集地の標高は、100m位と意外に低かったのには驚いた。

《参考文献》

野中 勝, 1991. クロカタビロオサムシの追加記録. 翔, (89):14.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

白山中宮温泉付近のカミキリムシ

松井正人

1995年、白山スーパー林道の入口の吉野谷村中宮温泉付近で、訪花性誘引器を用い約5か月間昆虫相の調査を行なった。この時に記録したカミキリムシについて報告する。

なお、誘引器の準備で便宜を計っていただいた江口元章、江崎功二郎の両氏、種の同定をお願いした井村正行氏にお礼申し上げる。

《調査法と調査地》

尾根、山腹、谷と地形の異なる3か所にそれぞれ1個の誘引器を設置し、原則として1週間に1度回収した。誘引剤にはアカネコールを使用し、誘引器ともどもサンケイ化学株式会社のものを利用した。

調査地	標高	地形	調査期間	誘引器の色	誘引器の高さ
吉野谷村雄谷入口	560m	尾根	6月10日～10月1日	黄色	10m
尾口村三又発電所	600m	山腹	6月10日～10月1日	白色	15m
吉野谷村途中谷	620m	谷	5月14日～10月1日	黄色	8m

表-1. 調査地

《記録したカミキリムシ》

記録したカミキリムシは32種1402頭で、石川県初記録のアカジマトラカミキリも1頭得られた。

表-2は種別の記録で、数字はその期間内に得られた頭数を示し、空白は記録がないことを、また-は調査していないことを示している。たとえば、カラカネハナカミキリの山腹の記録では、5月14日～6月10日は未調査で、6月10日～6月17日には記録が無く、6月17日～6月25日には2頭得られている。

	月	5			6			7			8			9		10					
		日	14	20	27	4	10	17	25	1	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	1
カラカネハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-		2	1			1										
	谷																				
キバネセハムシハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-	1															
	谷																				
ヒナリハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-		1	1													
	谷		1	5		1															

	月	5			6			7			8				9			10			
		日	14	20	27	4	10	17	25	1	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	1
ニセヨコモンヒメハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-	6															
	谷									1											
セズジヒメハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-	5															
	谷			1	1																
ミワヒメハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-			1	1												
	谷																				
チャイロヒメハナカミキリ	尾根	-	-	-	-					1											
	山腹	-	-	-	-	4	5	3		3											
	谷																				
ナガバヒメハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-	7	7	3		1											
	谷					1															
ヒメハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-	2															
	谷																				
チャボハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-					2											
	谷																				
ミヤマホソハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-							1									
	谷																				
コソバホソハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-		1												1		
	谷																				
ヨツスジハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-					2		4	5	4	3	1	1	1			
	谷																				
カエデノヘリグロハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-			1													
	谷																				
フタスジハナカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-					1											
	谷																				
シラケトラカミキリ	尾根	-	-	-	-		1	1					1								
	山腹	-	-	-	-																
	谷																				
キスジトラカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-								1								
	谷																				
エグリトラカミキリ	尾根	-	-	-	-		1				2	1									
	山腹	-	-	-	-							1	2	2							
	谷										1						1				

	月	5			6			7			8				9			10			
		日	14	20	27	4	10	17	25	1	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	1
ホソトラカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-			1													
	谷																				
トゲヒゲトラカミキリ	尾根	-	-	-	-	120	272	139	106	30	1	1									
	山腹	-	-	-	-	14	113	58	55	11	4	2	3	3	1						
	谷	1		6	27	59	96	118	10		1	2			2	2	1				
ヒメクワトラカミキリ	尾根	-	-	-	-			1													
	山腹	-	-	-	-																
	谷																				
アカジマトラカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-																
	谷																1				
マフシタトラカミキリ	尾根	-	-	-	-			4	1	1											
	山腹	-	-	-	-				1	1											
	谷																				
シロトラカミキリ	尾根	-	-	-	-			1													
	山腹	-	-	-	-			1													
	谷																				
ブドウトラカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-																
	谷																				1
シナノクロフカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-			1													
	谷																				
シロオビチビカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-																
	谷																				1
ジュウジクロカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-			1													
	谷																				
ハノアオカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-																
	谷																				1
ヒザナギヒメルカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-					1	1				1						
	谷												1		1						1
シラホシカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-																
	谷																				1
キモンカミキリ	尾根	-	-	-	-																
	山腹	-	-	-	-			2	1	1	1										
	谷												1								2

表-2. 記録したカミキリムシ

医王山が県立公園になるが

富山県側は既に指定されているが、この四月から石川県側も県立公園に指定される。一種、二種、三種の特別地域と普通地域があるが、採集禁止の地域はない。

天気予報のメッシュ化

最近の天気予報は良く当たるようになり、今度は二十キロメッシュで予報することになった。このメッシュは国地の五万分の一地形図の大きさ、金沢雨、鶴来雨、白峰雨、小松晴なんて予報があるかも知れない。これってギフ観察の頼りになります。

成虫越冬用の冬眠箱

北米には、蝶の冬眠箱があるらしい。鳥の巣箱を長くしたようなもので、丸い穴の代わりに二、三本の長いスリットがあり、蝶が見付けると、すんなり入って越冬するらしい。詳細は、日昆協ニュースレター二十三・二十四参照。

松本市昆虫目録が作られる

松本市史が八年度に出版されるが、昆虫編に記録は載らなくなった。そこで、別冊の記録集が九年度に発刊されることになった。

中西氏がインターネット

流行のインターネットに中西氏が挑戦中。パソコンもモデムもそろったところで、ネットサーフィン。しかし、ウキウキやっているのは、奥さんの方らしい。

小松昆虫館が再始動

三月二十三日、展示も新たに小松昆虫館がリニューアルオープンする。小松市役所から徒歩二分、芦城公園の隣は、地理的にも便利です。

相次いで開かれる大型学会

三月末には参加人員一万人余の薬学会、四月初めには同五千余人の物理学会と、ギフチョウシーズンにあわせ、大型学会が金沢で開かれる。三

月末は例年ならギフチョウの走り、ギフチョウ目当ての参加者がいても不思議では無い。今年の春はちよつと遅いが、みごとネットインできるか。

田中律子はお茶を飲むか

四月五・六・七日と石川テレビ主催のアウトドアフェスティバルが産業展示館で開かれる。車やログハウスの大物から、キャンプ用品や食品などの小物まで、関係商品が一堂に会する。小幡氏得意のアウトドアズフォトも展示され、トークショーにやってきた田中律子がある前でお茶を飲むかもしれない。

初見予想は三月二十六日

新方式の予想によれば、兼六園の桜は四月五日に開花するらしい。ギフチョウは開花より十日程早いので、初見予想は三月二十六日か。

福井の山岸善也氏転居

山岸氏、かつての新鳴鹿へ転居の予定。虫は勝山の方が

多いが、生活を考えると福井平野の方が良いらしい。高速にも近いし、金沢も近くなる。

丸岡町新鳴鹿2-1100

B1棟201号

☎077616614840

例会の記録

二月一日(木)八時から城南管工二階にて開催。

異常低温のアイスバーンにも係らず今回は遠く福井や河内村からの参加があった。

今回は、①今年から会誌は百五十部発行、②金沢大学への納本、③昆虫総目録の進捗状況、④自然史博物館設立運動への取組み、⑤会誌交換、⑥会誌の謹呈先、⑦について話し合った。①④については報告で、⑤については、音信の無い会誌交換は、しばらく見合わせる事になり、⑥については出席者が少ないので、次回持ち越しになった。

参加は谷口、井村、中西、松井、指田、江崎、山岸、永幡(T.E.L参加)の八人。谷口氏は新入会員。

会員の動き・しゃぼの動き

島根でも採れたカバマダラ
 昨年、小松と押水でカバマダラが発生し、日本海側に広く飛来しているだろうと予想していたが、島根県にも飛来したようだ。こうなるとますます福井や京都、兵庫、鳥取が気になってくる。

高田君マンションに引越し
 突然の引越しで、郵便が返送されてきた。最近付き合っていた彼女が原因のようで、駐車場付のマンションに移った。「駐車場付のマンション」この一言は絶大なる威力を発揮するが、行ってみるとオートロックもエレベーターもなく、駐車場にポツンと四駆の彼女が止まっていた。金沢市宝町6-126 二井マンション
 ☎(花村) 6515474

石川県産オクワガタ

これまで噂の中にあつた県産オクワガタのデータが発表された。一九九三年八月初旬 宇ノ気町気屋峠 2♂。その後は採集されず、後にも先にもこの記録しかない。詳細については入場 登、一九九五、アカハネムシ十五号を参照されたい。

カメ研とかめむしニュース

学術的な形式にはこだわらず、おもしろい同人会が目標のカメ研。年に一、二度臭い話で盛り上がる談話会や採集会がある。かめむしニュースは年四、五回発行予定で、二号まで発行済み。現在のメンバーはアサギマダラを調べる会のメンバーで、目下会員を広く募集している。

金沢大学附属図書館に納本翔六十二号以降の閲覧が、金沢大学附属図書館でも可能になった。学術情報ネットワークで各地の大学からも検索でき、有料で郵送サービスも受けられる。

与那国ホンダの蝶の写真

アカネアゲハでも有名な与那国ホンダの西條さん、人柄もあつて夜な夜な大勢の虫屋が集まり蝶談義に花が咲く。この虫屋達を毎晩見下ろしている蝶がいる。ヤエヤマムラサキ、コノハチヨウ等の蝶たちで、松田俊郎氏によって撮影されたものだ。

月刊むし二五周年三〇〇号

この中で藤田氏は、二十五年間一度も合併号を出さなかったこと、硬い記事と柔らかい記事がうまくマッチした雑誌をつりたかったこと、一年間アルバイトをやりながら無給で編集したことなどについて語っている。

翔

NO. 119

1996年4月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

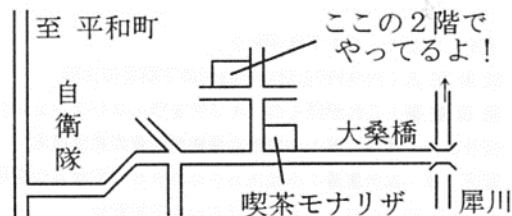
〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



目次(119号)

松井正人：チャバネゼリとミヤマチャバネゼリの下顎長の比較	1
指田春喜：これがぼくの「ギフチョウ・コレクション」	3
松井正人・富沢章：小松市立博物館所蔵の昆虫標本	6
富沢章・富沢直浩：小松市でクロカタビロオサムシを採集	7
井村正行：クロカタビロオサムシの追加記録	7
松井正人：白山中宮温泉付近のカミキリムシ	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	12